

2002年12月の東北地方の天候

【12月の特徴】

- ・低温
- ・局地的な大雪

(1)概況

中旬と下旬を中心に西高東低の冬型の気圧配置となる日が多く、東北日本海側では曇りや雪または雨の日が多かった。また、上旬は本州南岸を東進する低気圧の影響を受けやすく、東北太平洋側でも南部を中心に晴れの日が少なかった。

上旬後半～中旬はじめと下旬後半は、強い寒気が南下したため気温がかなり低くなり、局地的な大雪となった。

月平均気温は東北北部でかなり低く、東北南部で低い。月降水量は東北北部でかなり少なく、東北南部で平年並。月間日照時間は東北北部で少なく、東北南部でかなり少ない。月降雪量は東北北部で平年並、東北南部でかなり多い。

注) 気候統計値は、東北地方にある17地点の気象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。細分地域については3ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は1971-2000年です。階級区分については、2ページ目下段の脚注を参照して下さい。

(2)天候経過

上旬：はじめ高気圧に覆われ晴れる所が多かったが、中頃からは本州南岸を東進する低気圧や北からの寒気の影響を受け、曇りや雨または雪の日が多かった。特に、低気圧が通過した9日は東北南部を中心に雪となり、小名浜では12月として最大となる14cmの日降雪量を記録した。

平均気温は低い。降水量は東北北部でかなり少なく、東北南部で多い。日照時間は東北北部で多く、東北南部でかなり少ない。

中旬：16～17日に低気圧が発達しながら東北地方を通過したため、東北北部を中心に雨となり、各地で荒れた天気となった。その他の日は冬型の気圧配置となることが多く、東北日本海側は雪または雨、東北太平洋側では概ね晴れた。なお、強い寒気の入った11日は東北日本海側で局地的に大雪となり、青森では日降雪量が67cmと、通年での最大値を36年ぶりに更新した。

平均気温は平年並。降水量は東北北部で多く、東北南部でかなり少ない。日照時間は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で平年並。

下旬：24～25日にかけて低気圧が相次いで東北地方を通過したため、各地で雨または雪となった。その他の日は冬型の気圧配置となることが多く、東北日本海側は曇りや雪、東北太平洋側では概ね晴れた。なお、26日以降は強い寒気が次々に東北地方に流れ込んだため、27日に各地で真冬日（日最高気温が0℃未満）となるなど、寒さが厳しかった。

平均気温は東北北部でかなり低く、東北南部で低い。降水量は東北北部でかなり少なく、東北南部で平年並。日照時間は東北北部で少なく、東北南部で平年並。

(3) 月統計値の極値・順位の更新

(月平均気温、月降水量、月間日照時間、月最深積雪の3位まで。ただし、白河の月降水量と新庄・むつ・白河の月最深積雪は、統計期間が短いため1位に該当した場合のみ示す。)

月降水量多い方からの極値・順位更新

順位	地点名	降水量(mm)	これまでの最大(mm)(年)	統計開始年	平年値(mm)
1位	白河	48.5	44.5(1997)	1994	25.0

月降水量少ない方からの極値・順位更新

順位	地点名	降水量(mm)	これまでの最小(mm)(年)	統計開始年	平年値(mm)
1位	盛岡	23.5	26.0(1975)	1923	64.5
	山形	29.5	29.5(1978)	1891	77.2
2位	むつ	62.0	50.5(1995)	1935	93.3
	酒田	75.5	60.0(1974)	1937	201.9
3位	秋田	83.0	51.5(1934)	1886	163.8

月最深積雪大きい方からの極値・順位更新

順位	地点名	最深積雪(cm)	起日	これまでの最深(cm)(年)	統計開始年	平年値(cm)
1位	小名浜	15	9	8(1936)	1916	1

(4) 月気候表(2002年12月)

地 点	月平均気温(年差) 階級	月降水量(年比) mm % 階級	月間日照時間(年比) h % 階級	月最深積雪(年値) cm cm 階級	月降雪量(年値) cm cm 階級		
					階級	階級	階級
青 森	-0.3 (-1.6)*	143.0 (96) 0	47.7 (87)	81 (51) +	254 (177) +		
深 浦	0.7 (-1.8)*	86.5 (69) *	24.2 (71)	29 (17) +	71 (42) +		
む つ	-0.7 (-1.9)*	62.0 (66) *	77.8 (106) +	12 (24)	--- (---) ---		
八 戸	0.1 (-1.5)	16.0 (38) *	120.1 (94)	6 (10)	10 (21) 0		
秋 田	1.0 (-1.8)*	83.0 (51) *	42.7 (90)	25 (16) +	73 (50) +		
盛 岡	-0.4 (-1.2)	23.5 (36) *	104.7 (100) 0	12 (17) 0	13 (41)		
大 船 渡	2.4 (-1.1)	17.5 (47)	129.4 (93)	4 (4) 0	6 (7) 0		
宮 古	1.2 (-1.8)*	21.0 (53) 0	128.0 (84) *	12 (6) +	10 (9) +		
仙 台	3.2 (-1.1)	16.0 (61) 0	127.6 (88)	4 (7) 0	8 (11) 0		
石 卷	2.3 (-1.1)	16.5 (67) 0	141.0 (91)	5 (5) 0	10 (7) +		
山 形	1.4 (-1.0)	29.5 (38) *	67.0 (79)	14 (23) 0	54 (59) 0		
新 庄	0.6 (-0.8)	×	32.7 (88) 0	39 (50) 0	--- (---) ---		
酒 田	3.3 (-1.0)	75.5 (37) *	43.9 (98) 0	17 (13) +	64 (33) +		
福 島	3.2 (-1.0)	24.0 (74) 0	121.7 (93)	19 (10) +	33 (19) +		
若 松	1.4 (-0.5)	65.0 (78) 0	45.2 (63) *	22 (28) 0	87 (73) +		
白 河	1.7 (-1.0)	48.5 (194) +	123.8 (78) *	24 (8) + *	--- (---) ---		
小名浜	5.0 (-1.1)	44.5 (127) 0	155.9 (84) *	15 (1) + *	14 (1) + *		

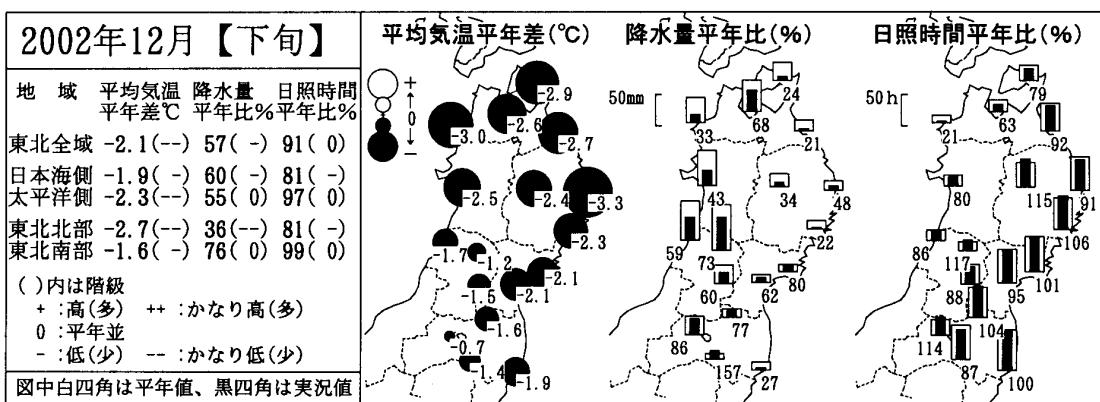
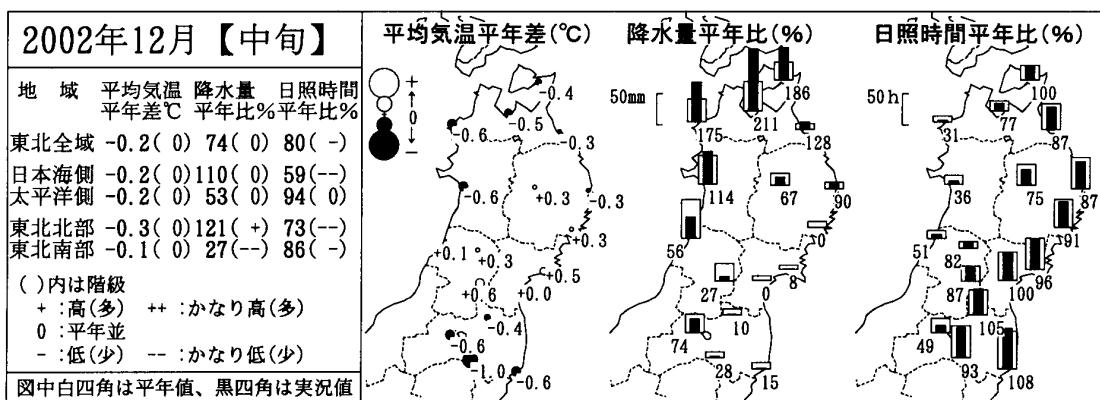
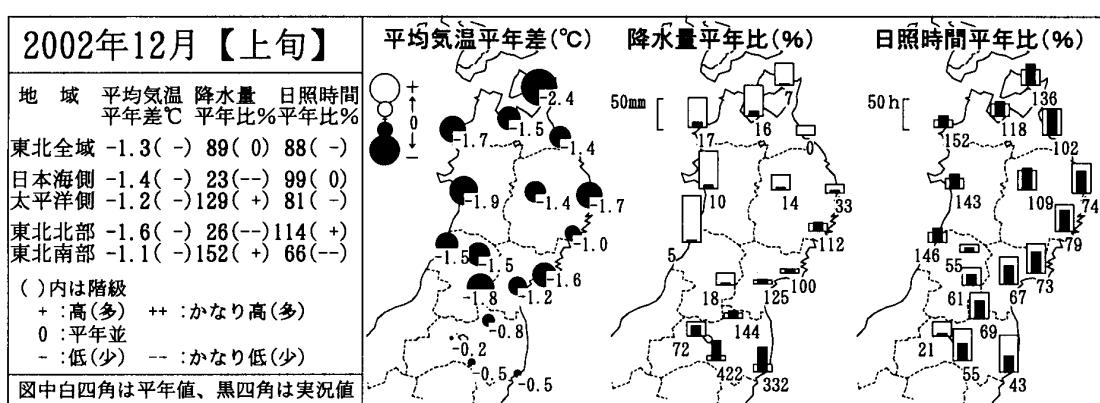
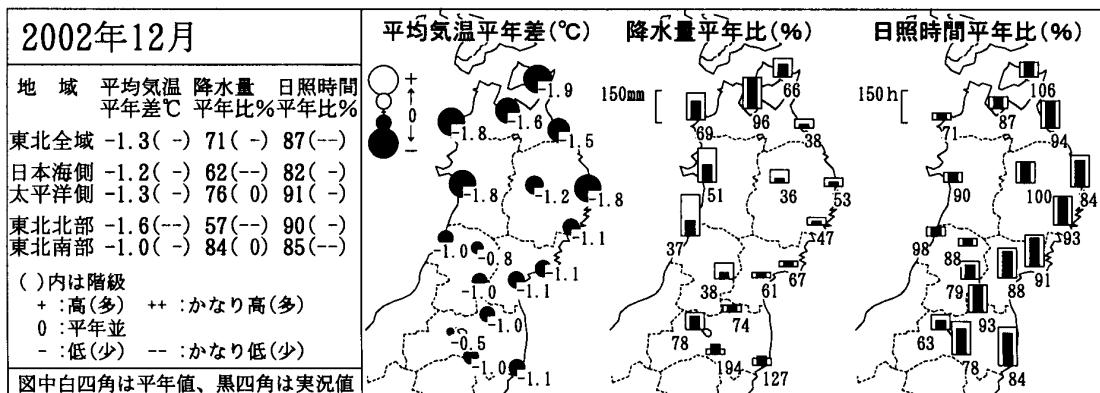
観測値欄の記号は、×：欠測)：欠測日を含む -：現象なし ---：観測をしていない

階級は +：高い(多い) 0：平年並 -：低い(少ない) *は「かなり」を表す

月最深積雪と月降雪量の階級については、平年値が「1cm」以上の場合のみ表示する

注)階級は「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3階級とし、それぞれの階級幅は、1971~2000年の30年間ににおいて出現した値を等確率(33.3%)に区分しています。また、低い(少ない)方または高い(多い)方から出現率10%の範囲を、それぞれ「かなり低い(少ない)」、「かなり高い(多い)」と表し、補足的に用います。本資料の本文にある階級の表現も、「かなり低い(少ない)」、「かなり高い(多い)」に該当する場合はそのように記述し、細分地域により階級表現が異なる場合は地域を細分して記述しています。

(5) 2002年12月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



注) 細分地域

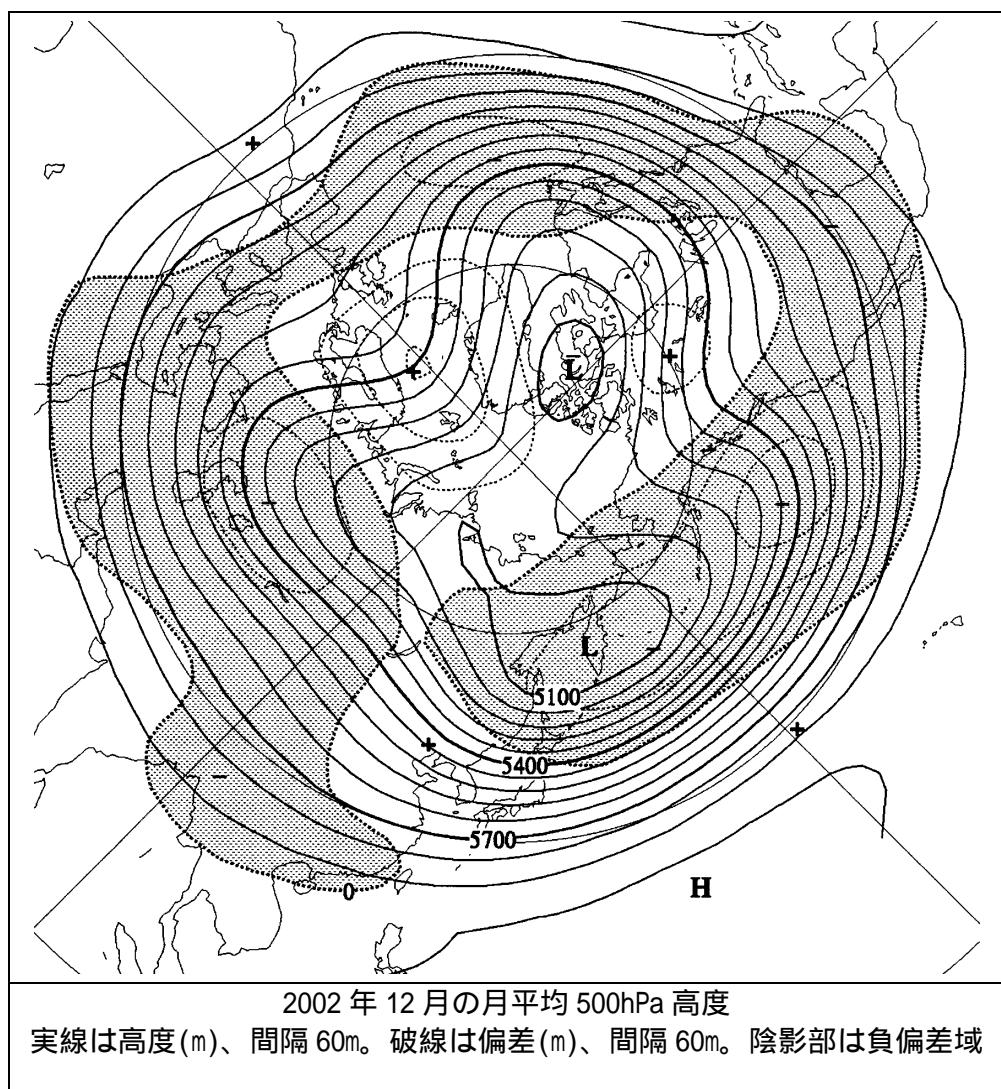
東北日本海側：青森県津軽地方、秋田県、山形県、福島県会津地方

東北太平洋側：青森県下北・三八上北地方、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り地方

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

(6) 2002 年 12 月の循環場の特徴



北半球の高緯度では正偏差（平年より高度が高い状態）が広がり、オホーツク海から北太平洋にかけて負偏差（平年より高度が低い状態）となった。このため、極付近の寒気が中緯度に南下しやすく、日本付近では北日本を中心に冬型の気圧配置がしばしば強まった。

東北地方は、上旬後半から中旬はじめにかけてと、下旬の後半に強い寒気の影響を受けたため、月平均気温は各地で平年を下回った。